

若者の転出の要因解析と 定住化促進に向けた施策の検討

富山県立大学
環境・社会基盤工学科 立花 潤三

1.研究背景

地方

若年世代の
人口減少

- ・ 税収減による行政サービス水準低下
- ・ 地域インフラの縮小→利便性の低下
- ・ 空き家、耕作放棄地の増加
- ・ 地域コミュニティの機能低下

人口
流出

大学や大企業の偏在
高い給与
高い利便性

etc.

東京

- ・ 人口過密
- ・ 首都直下地震等、災害時のリスクの肥大

2.研究目的

人口流出要因・・・地方部との所得差や職業事情など様々



アンケート調査を実施

総務省統計局によると、22～24歳の都道府県間移動が最も活発

→就職活動期の大学生を対象に意志決定要因を調査・分析

どの要因が地元志向、大都市志向に影響しているか

- ・ベーシックインカム制度（無条件の最低所得保障）の導入が居住地選択に与える影響を調査する。

アンケート調査

・ 調査概要

実施期間：2021年11月16日～2021年12月3日

対象者：大学3年生～大学院修士課程2年生

対象地域：地方部（都道府県人口14位以下 {250万人以下} の地域）

回収数：大学内回収数 58部

Webアンケート回収数 740部

・ 調査項目

1.性別

2.居住都道府県

3.学年

4.高校卒業時の居住都道府県

5.就職後の居住予定地

6.就職活動をする上で重要視すること

7.勤務地のこだわり

8.「地元志向」に影響した要因

9.「大都市志向」に影響した要因

10.「その他志向」に影響した要因

11. 5～50万円/月の無条件給付金

（ベーシックインカム制度）を給付した際の勤務地のこだわり

3.研究結果

3-1. 就職活動をする上で重要視すること

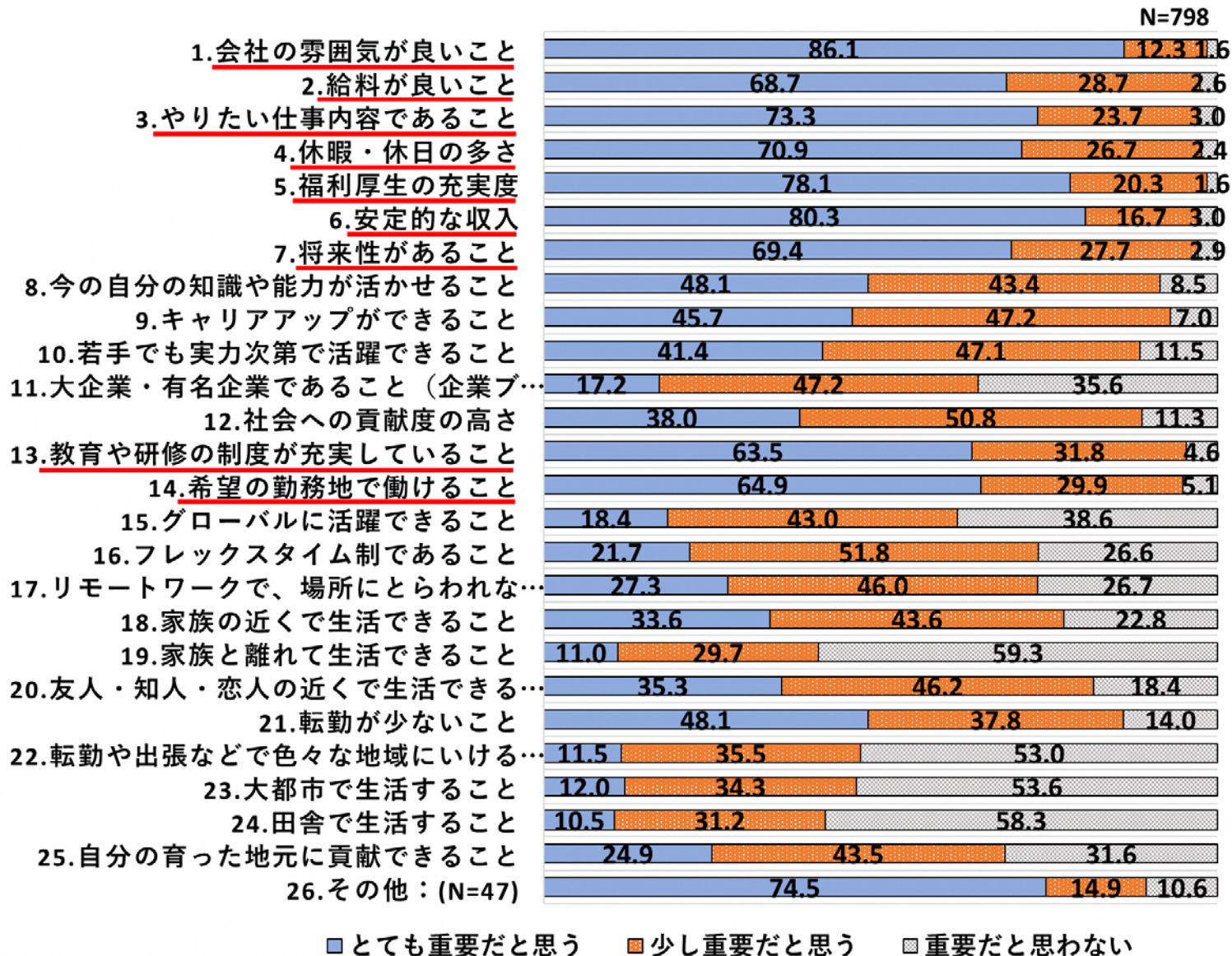
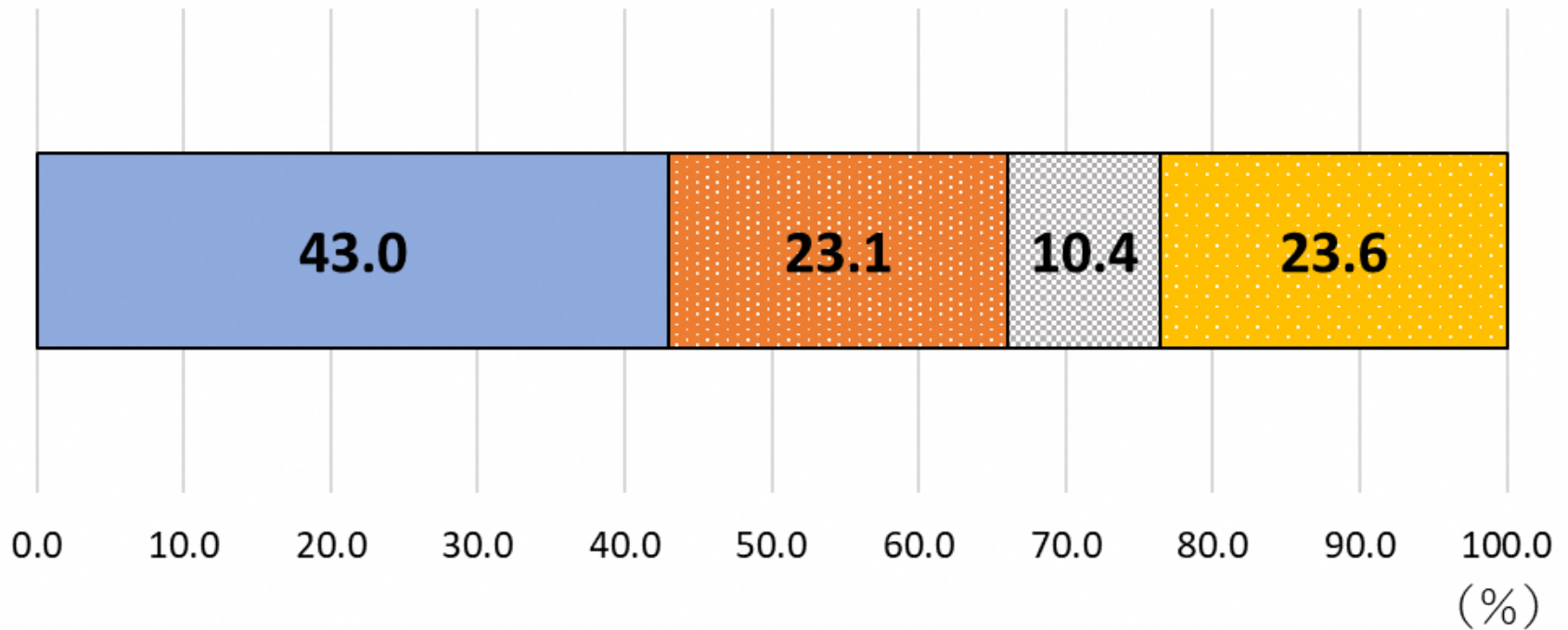


図1.就職活動をする上で重要視すること

3-2. 勤務は地元？ それとも大都市？



- 地元が良い
- 大都市（人口100万人以上）が良い
- それ以外の地域が良い
- こだわらない

3-3. 地元志向に影響を与える要因分析

表-1. 地元志向に影響を与える要因分析の結果（重回帰分析の結果）

	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	0.072	0.007		0.990	0.323
自分の育った地元で貢献できること：とても重要だと思う	0.492	0.045	0.430	10.855	0.000
大都市で生活すること：重要だと思わない	0.287	0.050	0.289	5.706	0.000
自分の育った地元で貢献できること：少し重要だと思う	0.195	0.037	0.196	5.256	0.000
転勤が少ないこと：とても重要だと思う	0.133	0.035	0.134	3.821	0.000
フレックスタイム制であること：とても重要だと思う	-0.092	0.040	-0.077	-2.282	0.023
家族の近くで生活できること：重要だと思わない	-0.248	0.049	-0.210	-5.100	0.000
グローバルに活躍できること：重要だと思わない	0.082	0.034	0.080	2.430	0.015
大都市で生活すること：少し重要だと思う	0.101	0.052	0.097	1.954	0.051
社会への貢献度の高さ：重要だと思わない	0.115	0.050	0.074	2.306	0.021
安定的な収入：重要だと思わない	-0.198	0.091	-0.068	-2.174	0.030
将来性があること：少し重要だと思う	0.060	0.033	0.055	1.818	0.070
大企業・有名企業であること（企業ブランド）：少し重要だと思う	0.062	0.030	0.062	2.059	0.040
家族の近くで生活できること：少し重要だと思う	-0.117	0.039	-0.118	-3.013	0.003
友人・知人・恋人の近くで生活できること：とても重要だと思う	-0.086	0.036	-0.083	-2.386	0.017
リモートワークで、場所にとらわれない働き方ができる：とても重要だと思う	-0.087	0.039	-0.078	-2.249	0.025
転勤が少ないこと：重要だと思わない	-0.072	0.047	-0.050	-1.519	0.129
今の自分の知識や能力が活かせること：重要だと思わない	0.103	0.057	0.058	1.825	0.068
福利厚生の実施度：重要だと思わない	-0.218	0.126	-0.056	-1.727	0.085

a.従属変数 地元

3-4. 大都市志向に影響を与える要因分析

表-2. 大都市志向に影響を与える要因分析の結果（重回帰分析の結果）

	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	0.552	0.060		9.175	0.000
大都市で生活すること：重要だと思わない	-0.497	0.048	-0.588	-10.283	0.000
自分の育った地域に貢献できること：重要だと思わない	0.093	0.033	0.102	2.815	0.005
大都市で生活すること：少し重要だと思う	-0.210	0.049	-0.236	-4.294	0.000
田舎で生活すること：重要だと思わない	0.084	0.033	0.099	2.530	0.012
大企業・有名企業であること（企業ブランド）：とても重要だと思う	0.126	0.038	0.113	3.284	0.001
家族の近くで生活できること：重要だと思わない	0.103	0.035	0.102	2.950	0.003
安定的な収入：重要だと思わない	0.160	0.083	0.065	1.925	0.055
リモートワークで、場所にとらわれない働き方ができる：重要だと思わない	-0.058	0.031	-0.060	-1.859	0.063
将来性があること：少し重要だと思う	-0.071	0.031	-0.076	-2.311	0.021
休暇・休日の多さ：とても重要だと思う	-0.058	0.031	-0.062	-1.883	0.060
希望の勤務地で働けること：重要だと思わない	-0.105	0.062	-0.055	-1.705	0.089
今の自分の知識や能力が活かせること：とても重要だと思う	-0.045	0.027	-0.053	-1.634	0.103
会社の雰囲気が良いこと：重要だと思わない	-0.253	0.113	-0.076	-2.243	0.025
福利厚生の実度：重要だと思わない	0.249	0.116	0.075	2.144	0.032
田舎で生活すること：とても重要だと思う	-0.077	0.051	-0.056	-1.513	0.131

a.従属変数 大都市

3-5. 地元志向、大都市志向に影響する要因＜まとめ＞

①『地元志向』の就職活動における主な意志決定要因

重要視すること

自分の育った地元で貢献できること
家族の近くで生活できること
転勤が少ないこと
安定的な収入

重要視しないこと

大都市で生活できること
グローバルに活躍できること
フレックスタイム制であること
リモートワークで場所にとらわれない働き方ができること

②『大都市志向』の就職活動における主な意志決定要因

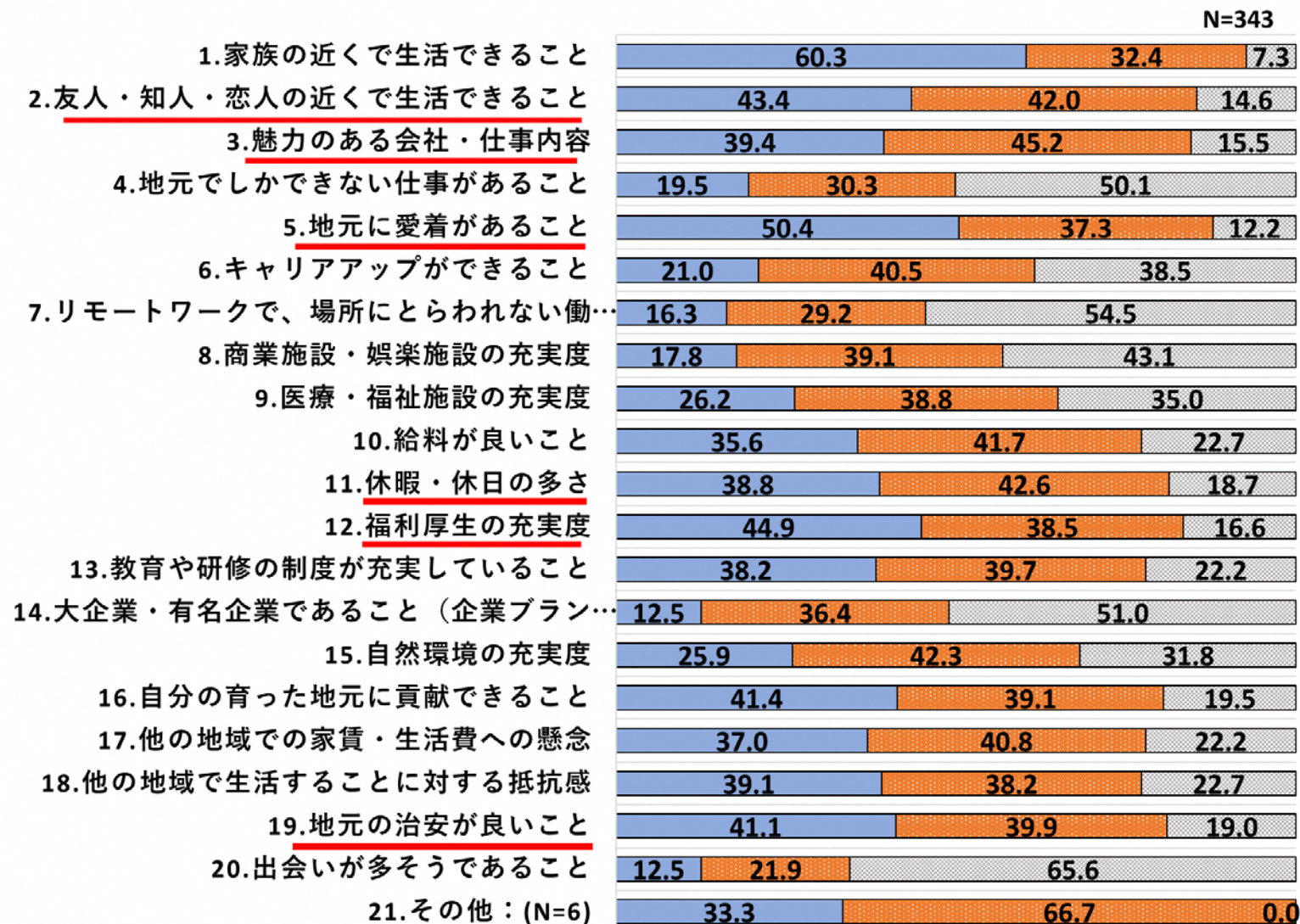
重要視すること

大都市で生活できること
大企業・有名企業であること
会社の雰囲気の良いこと

重要視しないこと

家族の近くで生活できること
自分の育った地元で貢献できること
田舎で生活すること

3-6. 地元志向に影響した要因（アンケート集計結果）



■ とても影響したと思う ■ 少し影響したと思う ■ 影響しなかった

図3. 「地元志向」に影響した要因

3-7. 大都市志向に影響した要因（アンケート集計結果）

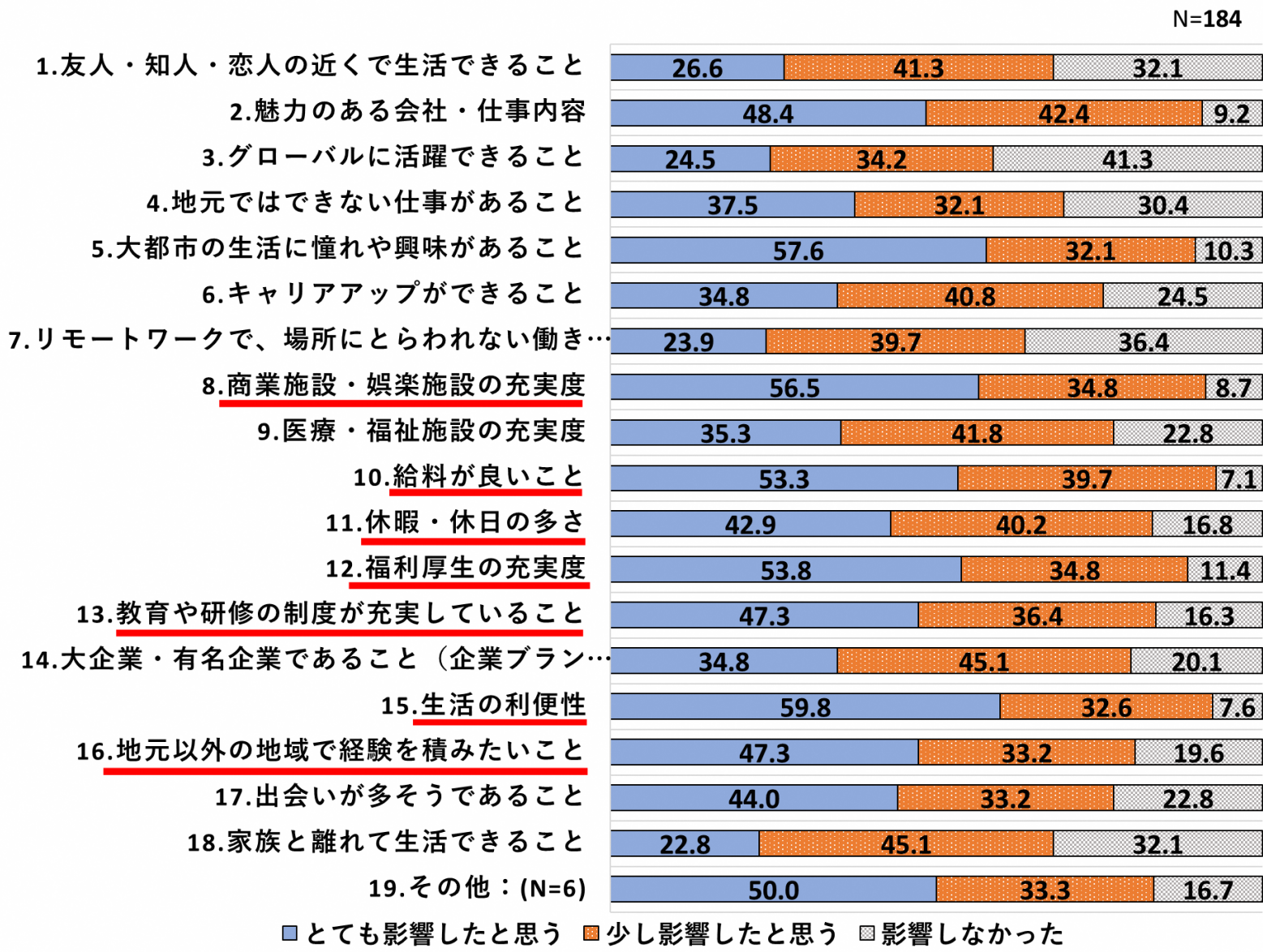


図4. 「大都市志向」に影響した要因

3-8. ベーシックインカムが志向に与える影響

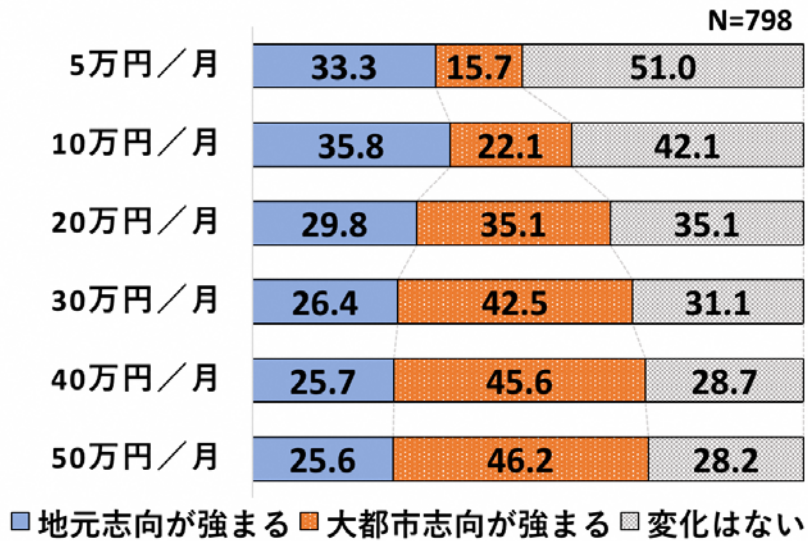


図5.ベーシックインカム制度実施時の勤務地のこだわりの影響（全体）

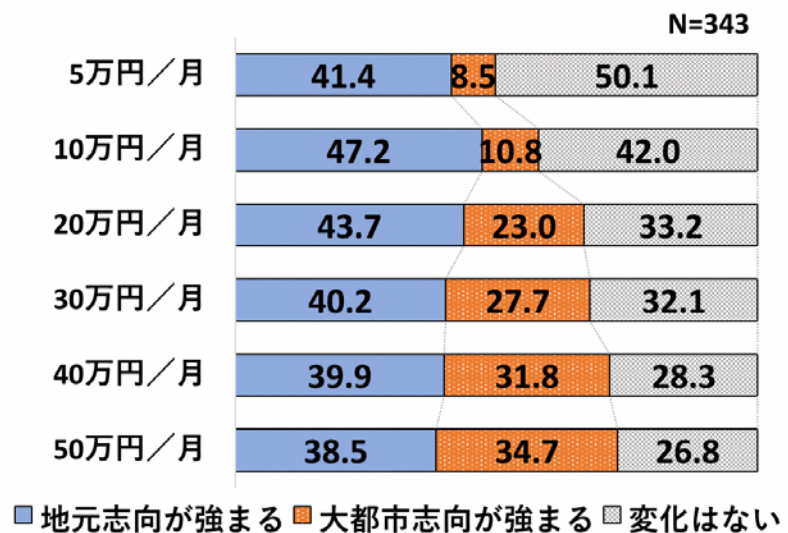


図6.（地元志向の人）

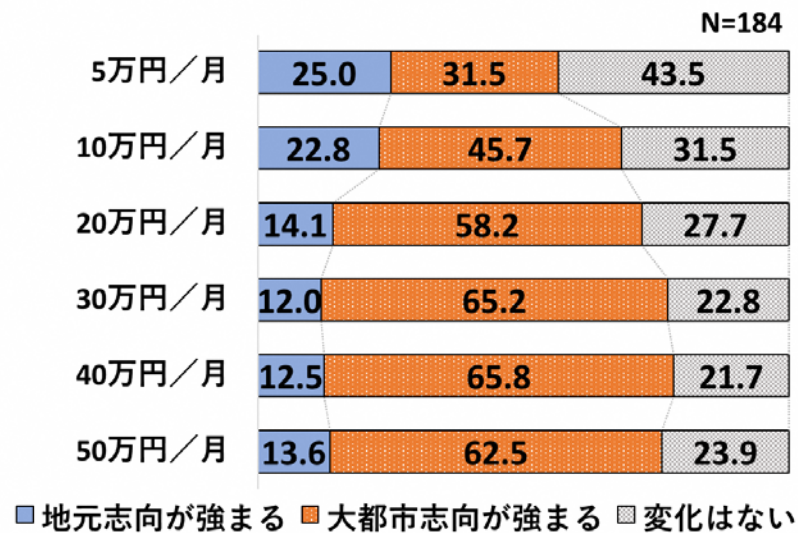


図7.（大都市志向の人）

4.まとめ

本研究では大学生を対象としたアンケート調査を行い、下記のことを調査した。

- ・就職活動をする上で重要視すること
- ・就職活動をする際の勤務地のこだわりとその要因
- ・ベーシックインカム制度実施時の勤務地のこだわりの影響

単純集計・重回帰分析の結果

地元志向の人の意思決定要因

自分の育った地元に貢献できること
家族の近くで生活できること
転勤が少ないこと
安定的な収入
友人・知人・恋人の近くで生活できること
魅力のある会社・仕事内容
地元への愛着があること

4.まとめ

大都市志向の人の意志決定要因

大都市で生活できること
大企業・有名企業であること（企業ブランド）
会社の雰囲気が良いこと
商業施設・娯楽施設の充実度
給料が良いこと
生活の利便性
福利厚生の実充実度

ベーシックインカム制度について

ベーシックインカムの導入により、居住地選択に一定の影響があることが分かった。また、給付金額が5-10万/月のときは「地元志向が強まる」の割合が多く、20万円/月以上のときは「大都市志向が強まる」の割合が多くなるということが分かった。

5.参考文献

国土交通省, 第2節 人口減少が地方のまち・生活に与える影響

<https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h26/hakusho/h27/html/n1122000.html>

(最終閲覧日2022年2月1日)

富山県, とやまの未来創世に向けて国へ求めていること

<https://www.pref.toyama.jp/documents/8863/00980217.pdf>

(最終閲覧日2022年2月1日)

総務省統計局, 住民基本台帳人口移動報告2020年(令和2年)結果(移動率)

<https://www.stat.go.jp/data/idou/2020np/jissu/youyaku/index2.html>

(最終閲覧日2022年2月1日)

徳丸宜穂・柴山由理子(2019) フィンランドにおける普遍主義の特質とベーシックインカム社会実験, 北ヨーロッパ研究, Vol.15, 13-24

山森亮 (2019) フィンランドにおける「ベーシックインカム」実験: 概要と展望, 社会保障研究, Vol.5, No.2, 250-253

谷謙二 (2000) 就職・進学移動と国内人口移動の変化に関する分析, 地理学研究報告, Vol.20, 1-18

ご清聴ありがとうございました